



## 餌づけと観察

昨年末、銀閣寺門前の酒店で、人慣れした雀を見ました。観光客がうろうろしている店先で、悠然と餌を食べています。雀は警戒心の強い鳥ですから、不思議でした。

正月明けから、拙宅の庭に雀の餌を置いてみました。ペットショップで売っている小鳥の餌。中味は粟や稗です。そしたら、すぐに雀がやってきました。最初は6羽、日によっては20羽くらいが集まります。雨戸を開けると、何羽かの雀が隣家の屋根の上で餌を待っています。餌を置いて、家に入る間に雀が餌場にやってきました。餌場は食卓のすぐ横なので、雀を見ながらの朝食です。



中嶋哲夫の「人事も歩けば」

餌場と食卓の距離は4メートルほど。ガラス越しに眺めていると逃げませんが、さすがに室内を歩くと逃げます。警戒しつつも徐々に警戒心がゆるんでくるようです。毎朝、雀を眺めていると、面白くなってきました。

雀は最初に隣家の屋根にとまります。しばらく屋根の上で警戒をし、次に餌から1メートルほどの梅の枝にとまります。そこで何羽かが集まり、お互いが順番を譲り合うような状態が、しばし続きます。そのうち、1羽が地面に降り立ち、餌に向かうと、他の雀もいっせいに餌に向かいます。切り込み隊長雀がいるようです。また、食事中に物音や人影を感じ、1羽が飛び立つと、反射的に他の雀



▶雀の観察から見える、人事の仕事

も飛び立ちます。すべてが集団行動です。

しかし、雀は、餌の奪い合いもします。羽を少し広げ、尾羽を立てて自分を大きく見せて威嚇する。隣の雀を突ついたり、時には、突っつき合いながら空中に飛び上がる。そのたびに鳴き声が入り、賑やかなものです。なかには意地悪雀もいて、隣に来る雀を必ず追っ払うの也有います。集団内競争そのものです。

こうして、毎朝雀を観察していると、徐々に仮説ができてきました。たとえば、「餌場に来ている雀は3チーム」「雀のチームにリーダーはいない」「雀にも悪徳代官のようなキャラクターがいる」。

現時点では検証できませんが、仮説ができると、それを立証する方法を考え始めます(ちなみに、雀は身近な鳥ですが、その生態についてはあまり研究が進んでいないようです。インターネットで検索しても、確かな情報がありません)。観察→仮説→検証。雀を人に置き換えれば、人事の仕事と同じかもしれません。(MBO実践支援センター代表)

